

会 報 <<第386号>>

次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会



発行日 平成29年12月1日

<<目 次>>

- I 平成29年度見学研修会兼第461回(平成29年11月)月例会報告…2~6頁
 - 実施日 平成29年11月16日(木)
 - 見学先 ① 兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)
 - 見学先 ② 尼崎の森中央緑地
 - 研修概要 … 2頁
 - 尼崎21世紀の森構想 尼崎の森中央緑地事業概要 … 3~4頁
 - 兵庫県阪神南県民センター尼崎21世紀プロジェクト推進室
 - 整備課長 高見 康弘氏
 - 尼崎スポーツの森PFI事業の運営について … 4~6頁
 - 事業説明(1) 同上推進室 所長補佐 大西 敏文氏
 - 事業説明(2) あまがさき健康の森(株) 館長 今里 藤勝氏
- II 寄 稿 … 7頁
 - 神戸秘話第5回 『多彩な人物がさまざまな業界で活躍
森垣ファミリーの人々』 会 長 瀬戸本 淳
- III 会員レポート … 8~9頁
 - 鉄道秘話第7回 『ひょうごのナニコレ珍百景・鷹取工場』
(株)岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏
- IV お知らせ … 9~13頁
 - 花だより、月例会案内、事務局だより、広報コーナー

今月の花だより 『紅葉』

丹波市山南町 ・石倉寺 (せきがんじ)
神戸市北区淡河町・石峯寺 (しゃくぶじ)



石峯寺本堂の紅葉

平成29年度見学研修会

兼第461回（平成29年11月）月例会報告

実施日 平成29年11月16日（木）

見学先 ①兵庫県立尼崎青少年創造劇場
（ピッコロシアター）

②尼崎の森中央緑地

最近の見学研修は、京都・奈良の世界遺産の建造物、博物館等を巡ってきましたが、本年度は県内のユニークな施設に目を向けて、その施設の建設コンセプトや管理運営について研修を行うこととしました。また、ピッコロシアターでは館長の大鳥裕士氏による講演をお聴きしました。その概要を今回と次回（30年1月）に分けて報告します。

1 兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）の概要・・・平成30年1月会報掲載

兵庫県立尼崎青少年創造劇場は、次代を担う青少年たちが自由な創造活動を通じ友愛と、明るい未来を切り開く“心の劇場”として、昭和53年に誕生しました。以来、鑑賞劇場や実技教室、文化セミナーをはじめとした個性と魅力あふれる事業を展開し、「ピッコロ演劇学校」を開設するなど、地域の文化創造を支える人材の育成を行ってきています。

現在でも、演劇側からの使いやすい劇場のトップレベルにあり、その設計コンセプト、施設計画を見学しました。



ピッコロシアター玄関前にて

2 講演の概要・・・平成30年1月会報掲載

講師 ピッコロシアター館長 大鳥 裕士氏

テーマ ①ピッコロシアター/ピッコロ劇団について

②撮影探訪～自然の彩～

施設見学の後、劇場の建設コンセプト及び全国初となる県立劇団の設立などの先駆的取組について解説を受けるとともに、大鳥館長が永年取り組んで来られた“自然の彩”を主題とした旅と写真に関する講演をお聞きしました。



ピッコロシアター大鳥館長による施設説明



同 「自然の彩」講演

3 尼崎の森中央緑地の概要

尼崎臨海地域は、重化学工業を中心に日本の産業経済をリードしてきたものの、公害の発生など環境の課題を抱え、さらに産業構造の変化により工場跡の遊休地が発生するなど、地域の活力が低下し、その再生が急務となってきました。

このため、同地域を魅力と活力のあるまちに再生するため、水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりを目指し、「尼崎21世紀の森構想」を策定しました。その計画と現状を視察しました。



スポーツの森施設説明 今里館長



尼崎スポーツの森・アマラーゴから大芝生広場、森づくりエリア

尼崎 21 世紀の森構想 尼崎の森中央緑地事業概要

兵庫県阪神南県民センター尼崎 21 世紀プロジェクト推進室 整備課長 高見康弘氏

1 事業の目的・趣旨

平成14年3月『尼崎21世紀の森構想』を策定し、尼崎臨海地域1000haを「森と水と人が共生する環境創造のまちづくり」目指して取り組んでいる。この構想を先導する拠点地区が尼崎の森中央緑地である。

計画概要 29.1ha (都市公園18.9ha
港湾緑地10.2ha)

事業期間 H14年～H33年 (H29年度都市公園区域全面供用予定)

全体事業費 508億円

2 郷土の森づくり

- 生物多様性及び参画と協働による郷土の森づくりをコンセプトに、武庫川・猪名川流域、六甲山系等の植生をモデルとして、苗木を植樹し、100年後に六甲山のような森を目指している。



森づくり活動エリア：背後は植栽後4～5年、
前面のビニールのマルチ部分は1年程度

- 植樹用の苗木は、種子をモデル地域から採取し、緑地内の育苗圃場で育てている。苗木の植樹はアマフォレストの会、苗木の里親制度（ポット苗を自宅で育成）、地元企業等の参画と協働により進めている。28年度末で8万本植樹。



育苗圃場



※区域図及び計画図は兵庫県提供の研修資料から転用しました。



植樹後10年を経た「はじまりの森」

尼崎スポーツの森PFI事業の運営について I 事業説明(1)

兵庫県阪神南県民センター尼崎21世紀プロジェクト推進室 所長補佐 大西 敏文氏



尼崎スポーツの森全景(事業説明資料より)

1 事業目的

水泳等スポーツを通じた交流、県民の健康増進、地域の活性化を目指しスポーツ健康増進として整備した。

PFI事業として、設計施工から管理運営に至るまで民間のノウハウを最大限活用し、より質の高い公共サービスを提供している。

現在、「あまがさき健康の森(株)」を設立し、管理運営を行っている。

2 施設概要

- メインプール 50m×25m (国際公認)
冬季はスケートリンク
- サブプール 25m×35m
- 健康増進施設 アマラーゴ(スライダー、造波プール、子供プール)
フットサル 3面
グラウンドゴルフ等

3 事業概要

①事業方式

BTO方式(Build-Transfer-Operate)

※事業者が設計、建設を行い、県に本施設を引渡し、その後引続き事業者が本施設の維持管理、運営業務を行う。

②事業期間 20年間(H15.12~H35.3)

運営開始 H18.5~

③変動リスク 県1:民2

「事業者提案収入」と「実運営収入」の差額の1/3が県負担(収入)となる。

④事業費 設計・建築費約75億円

⑤PFI導入の効果

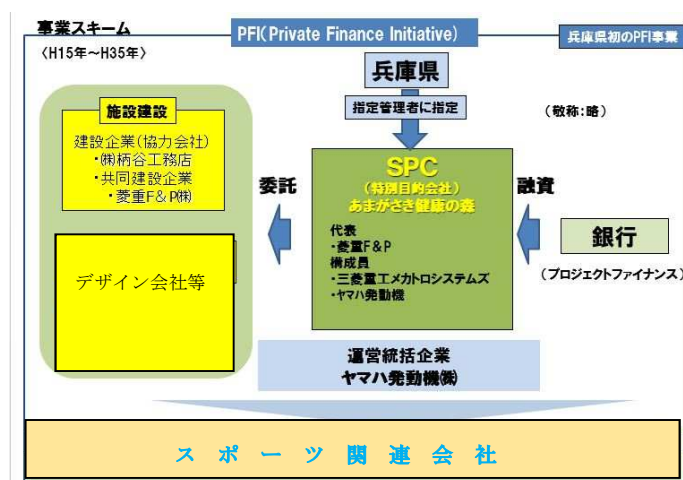
- アきめ細かいサービスの提供
- イ低廉な公共サービスの提供
- 維持管理のしやすい施設整備
- 計画的補修
- ウ官民の役割分担の見直し
- 官のノウハウと民のサービス提供力
- エ財政負担の平準化

建設費の割賦払いによるコストの平準化
県から維持管理に係る経費を指定管理料として支払うが、事業者から提案のあった計画に基づく指定管理料を下回っており、順調に運営されている。

尼崎スポーツの森PFI事業の運営について II 事業説明(2)

あまがさき健康の森(株) 館長 今里 藤勝氏

1 事業スキーム



スポーツの森・PFI事業の入札には38社が参加。最終的に3社から三菱・ヤマハチームが選定され、特別目的会社「あまがさき健康の森株式会社」を設立して運営している。

図は事業のスキームで、先に県の大西氏から説明があったBTO方式により建設・運営。平成35年の支払い終了後、兵庫県に移管される。

建設企業は、柄谷工務店、菱重(旧近畿菱重興産)。運営は、ヤマハ発動機のほかプール、アイススケート、フットサルを専門とする運営会社、

そして維持管理会社、コンビニ・飲食店により行っている。

スポーツ庁の調査があったが、PFI事業の成功例として全国から視察に来ている。

本施設の建設経緯として、「のじぎく国体」の水泳会場として仮設プールの予定を、地元要望を受け恒久施設としての50、25メートルプール、アイスリンクを整備することになった。

2 運営状況

①施設利用者推移

施設全体の利用者については、H28年度は約47万人で延440万人となり計画どおり順調に推移している。

②屋内プール

H28年度には25万人を超え、年々利用者が増加してきたが、10年を迎えた中あって、今後の推移に注意していくことが大事となってくる。

そのようなことから、利用者サービスとして昨年10周年には萩原智子、寺川綾を、今年は、200メートル平泳ぎ金メダリストの金藤理恵を招き、子供達に水泳クリニックの教室等を年に1回開催し、利用者確保への取り組みを行っている。



開設10周年記念萩原智子氏教室

③アイススケートリンク

H24年度には7万6千人を記録し、8万人、9万人の期待をもったが、その後西宮にリンクが設けられたこともあり減少に転じ5万9千人となった。少し上昇の兆しも見えている。

昨年は全日本のフィギュアのノービス選手権(小学生)を開催し、本田姉妹の活躍や平昌のオ



リンピックもあり子供達への刺激になることを期待している。

④屋外プールアマラーゴ

最高9万7千人で、この年は天気に恵まれ、尼崎・大物の市民プール、大阪・此花区のプールが閉鎖になったことも重なった。

但し、26年度は6万1千人と台風等の天気に非常に左右されやすい。



⑤フットサル

5万3千人から3万4千人に減少した。

日本サッカーの弱さや、フットサル場の増加が原因である。他府県では1,000円フットサルができ、今後も値下げの話があるなど、環境は悪い状況下にある。

2019年にラグビーのワールドカップがあり、この地域では子供達のラグビークラブが結構多いことから、ラグビー教室を開催し新たな誘客に取り組んでいる。

⑥グラウンド・ゴルフ

3,000人から右肩下がりでも下がっている状況にある。



⑦森のこども広場

1日2時間200円で子供達が喜んで利用している。バランス感覚よくなったと親にも好評。年間最高は2万5千人で、今でも2万2千人が利用している。

また、子供の体験づくりのため餅つき大会などを開いている。



⑦会員の利用

H28年度の会員数は約2200人、その施設利用約18万人であり、開設以来右肩上がりが増加している。

西宮市民が71%、尼崎ほか近隣の市が25%となっている。

3 売上状況

屋内プールは、当初予定が9,200万円から9,300万円ぐらいの需要を予想していたが、順調に伸びている。理由として、会員の堅調な増加、リオオリンピックでの日本水泳の活躍があり水泳熱が高まったことが挙げられる。また、保護者アンケートでは、習わせたいスポーツとしてプールが47%と一番高く、水の事故防止や学校での必須科目であることが要因である。

屋外プールは8,000万円の売上があったが天候等に左右されることが難となっている。

アイススケートは利用者の減とともに減収となってきている。

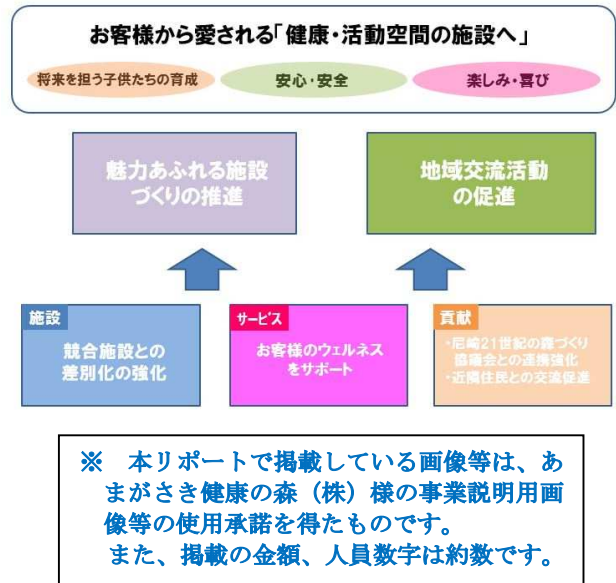
フットサルは、だんだん悪くなっており、グラウンド・ゴルフは100万円台の売上げしかない。

森のこども広場が、大体500万円を切るところで推移している。

このような隘路打開として、提案事業に拘らず、ダンス、トライアスロン、習字教室、英語教室等を開設しながら施設の活性化を図っている。

私達は、『お客様から愛される「健康・活動空間の施設へ』』をモットーとし、将来を担う子どもたちの育成に力を注ぎたいと考えている。スケートのように、ここからオリンピック選手が出るよう、そういう子供達の応援をしていきたい。

さらに「安心・安全」を最優先とし、「楽しみ・喜び」を加味したレクリエーションの場を提供しながら、地域交流の活動を促進するような施設運営をしていきたいと考えている。



《Q & A》

Q：年間売上げ目標と管理運営費について

A：H29年度は4億1,300万円、今後は年100万円程度下がる見込み。この売上げで建設から償却までは民間では無理。公共事業の仕組みの中で事業化が必要。

運営については民間のノウハウを活用して施設の有効活用に資すPFIが最適の手法。

人件費、光熱費、修繕費は、県から運営委託費が支払われており、委託費の問題はない。

Q：修繕費について

A：当初に修繕計画を策定し、その範疇で推移してきており、現在のところ修繕費に関するリスクはない。

Q：インストラクター等スタッフの配置

A：運営総括企業のヤマハから専門の企業に委託している。その配置等に係る業務計画書を毎年出させ、それを基に県に提出している。

《石田副会長謝辞》

長時間に亘り丁寧なご説明感謝します。この森づくりは新聞ニュースで知っていた程度ですが、100年もの壮大な計画とPFIによる施設運営の確かさに敬意を表します。私達もこれからこの施設の紹介に協力していきたいと思ひます。



「尼崎スポーツの森」事業説明

寄稿 神戸秘話第5回
『多彩な人物がさまざまな業界で活躍
森垣ファミリーの人々』
会長 瀬戸本 淳

前回は神戸港を近代的な“港湾”へと改修する一大プロジェクトを手がけた技術者、森垣亀一郎について綴ったのが、彼のファミリーには錚々たる人物が名を連ねている。

義父の神矢肅一は豊岡小学校の校長を務めていた時、才能がありながら家が貧しかった幼き亀一郎に目をかけ、進学への道を拓いた人物だ。その後、兵庫尋常小学校や神戸尋常高等小学校などの校長を務め、晩年は東京で私塾を開くなど有名な教育者で、長いあごひげの名士であったという。

その弟、沖野忠雄は土木史上に名を残す偉大な技術者だ。東京帝国大学で学ぶ亀一郎へ学資の援助もおこなった。豊岡藩の貢進生として大学南高（後の東京大学）へ進学、その後フランスへ5年ほど留学し近代土木を学ぶ。帰国後は淀川の改修や大阪港・神戸港の築港など国家的プロジェクトなどで手腕を発揮し、手がけた港湾は80カ所、河川は100カ所以上という。

亀一郎の妻、ふみの妹にして、神矢肅一の三女の福子が嫁いだ藤井家は、秋田藩の御殿医の流れを汲む家柄。秋田藩佐竹家の伝葉をもとに、藤井家代々により編み出されたのが「龍角散」だ。福子の夫、藤井正太郎は京都大学医学部を卒業し、御影で藤井医院を開業した。水泳教育にも尽力し、関西学生水上競技連盟や御影水泳教育研究会を創設。古式水泳に通じ、巻き足や踏み足などその技術を伝承したからこそ日本はシンクロナイズドスイミングの強豪国になったのかもしれない。元総理大臣の鳩山一郎とも親しかったそうだ。

正太郎の義兄にあたる二代目藤井得三郎は龍角散の会長を務めた人物で、亀一郎と交流が深かった。関東大震災後に大阪へ工場を移し事業を復興するにあたり、亀一郎が船会社との交渉をなどで協力して製品や救援物資の輸送が可能になった。

さて、森垣亀一郎は4男1女をもうけたが、教育熱心な家庭だったようで、4人の子息はみな神戸一中（現在の神戸高校）を出て、長男から三男は京都大学、四男は東京大学に進学している。三男の清は法学部を出て行政監察庁に勤めたが、他の3名はいずれも工学部を卒業し、父と同様に交通インフラを支える仕事で社会に貢献した。

亀一郎は港湾の専門家だったが、長男の茂は地下一筋。大阪の地下鉄建設に関わり、後に神戸市水道局長や神戸市地下街専務を歴任した。次男の誠は鉄道畑。神戸市交通局や阪神電鉄などで手腕

を発揮し、やがて鉄道車両メーカーの武庫川車両の社長に。四男の勉は父が造った港へと着く船舶の業界へ進み、川崎重工の神戸工場長を務めた。

御影にある森垣胃腸科外科の院長、森垣驍先生は、森垣誠の次男で亀一郎の孫にあたる。実は驍先生の奥様眞理子さんは私の神戸高校時代の同級生。お嬢様の美智子さんは元キャビンアテンダントで英語が堪能な上、家が近所だったこともあり、私の娘2人に英語を教えてもらうなど、家族ぐるみで親しくさせてもらっている。

思わぬところで神戸港の歴史に名を残す人物と繋がっているのも、神戸らしいはなしではないか。

《月刊神戸っ子 2017年6月号から転載》

- ※ 敬称略
- ※ 森垣博士功績顕彰会『森垣亀一郎伝』、赤松啓介『神戸財界開拓者伝』、日本埋立浚渫協会ホームページ、株式会社龍角散ホームページ、藤井大薬房ブログなどを参考にしました。

現在の神戸港新港第1突堤の様子

上 網屋吉兵衛顕彰碑

(神戸港建設の祖:29年5月会報より)

下 新港第1突堤



会員寄稿：鉄道秘話第7回
「ひょうごのナニコレ珍百景・鷹取工場」

㈱岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏

「創立 100 周年を迎える来年(平成 12 年)3 月に、私たち鷹取工場はあたかもそれが定められていた運命かのように、この神戸の地における歴史に幕を引きます。

鷹取工場 100 年の歴史は、多くの人の苦労や努力或いは支援によって築かれてきたものです。その中でも阪神・淡路大震災は、大きな犠牲と痛みをもたらしましたが、併せて多くの善意や絆も生み出しました。」

これは国鉄（JR）鷹取工場一般公開イベント時の工場長挨拶より抜粋したものである。創設から度重なる変遷を経てではあるが、一貫して蒸気機関車の製造・検修に輝かしい実績を残してきた鷹取工場。



工場 70 周年記念入場券（検修を受けている D51-211 号機は現在、王子動物園に静態保存されている）

話題としては、国鉄 80 周年記念行事の一環として、明治初期に米国から輸入され北海道開拓に活躍した義経号の動態復元工事に携わった。前後するが 1969 年、蒸気機関車全盛期を過ぎてからは電気機関車のほか、ディーゼル機関車や電車の検修業務も行っており、高砂工場閉鎖に伴う業務移管により、1984 年 7 月からは気動車・客車の検修を開始し、新幹線車両以外の検修業務を行うこととなった。



工場 80 周年記念入場券（この義経号が現在梅小

路に保存されている）

「東の大宮・西の鷹取」と言われるまでにあらゆる業務を集約していた同所だったが、1945 年 6 月 5 日の神戸大空襲、そして 95 年の震災によって二度も壊滅的な打撃を受けている。工場や入場していた車両も被害を受けた。特に入場中の C57 形蒸気機関車 1 号機はボイラーが大きく損傷し「再起不能」とまで言われたが、懸命の復旧作業で見事営業運転に復帰させ鷹取工場の技術を示した（姫路の御立公園に静態保存されていた C57 の 5 号機が部品取りに貢献したともいわれる）。長い歴史を築いてきた屈指の名門工場だったが震災の痛手は余りにも大きく、また神戸市からの強い要請にも配慮することとし、終焉を迎えることとなった。（建物の 90%が被害を受け、一時は完全に操業不能になっていたながらも、周辺の消火活動に工場の貯水槽の水を使用したり、近隣で被災した人たちのために工場施設を避難場所として提供したり、浴場を一般に開放したり等、地域とともに未曾有の大震災を経験している。同年 8 月の避難所解消までの避難者総数は 230 名、浴場の利用者は延べ 15,685 名にも及んだ）。

そんな名門工場であったが、塀に横付けした自転車の荷台に立ち上がって隠し撮りに興じていた頃の自分がとても懐かしい。今にして思えば声かけて正規の方法で入らせてもらえたかもしれないのにと悔やまれる。震災など夢にも思わなかった工場創立 80 周年の頃。「今日はどうな機関車が入庫しているのだろうか」と期待しながら「工場のおっちゃんに見つかって怒られへんか」と冷や冷やしながら。生家のあった東灘住吉から片道 15 キロの遠乗りは少年期の自分にはちょっとした冒険だった。清涼飲料水の給油（笑）に片道で二度ほど自販機停車すれば十分巡航できたので「今日も燃費がもう一つやな、帰りはどこで給油しようか。」と大人びたことをつぶやいていた。



廃車後に解体を待つ老雄 EH10。80 周年に沸いた頃である。人知れず去りゆくものも見てきた工場。日々幾つもの出会いと同じだけの別れがこの工場では重ねられた。

閑話休題。工場移転準備のため、97年2月24日で蒸気機関車検修業務を梅小路運転区に、同年8月5日をもって電気機関車検修業務を金沢総合車両所（交直流）および下関車両センター（直流）に、9月10日をもってディーゼル機関車および内燃機検修業務を後藤総合車両所に移管した。終業式典が挙行された前述の2000年3月29日には、この日最後の検査をすませた221系6両の出場記念式典も併せて執り行われた。電車検修業務は網干と吹田に、気動車・客車検修業務は網干に、貨車検修業務はJR貨物の広島車両所に移管された。その後の跡地利用については皆様もご存じの通りである。



現在の跡地の様子。遊歩道でそれとわかるが、来訪者で往年の栄華を知る人はどれくらいいるのか。

次回「和田岬と神戸市電」をお送りします。

花だより 石籠寺のもみじ (丹波市山南町岩屋)

紅葉を求めて丹波市山南町の古刹「石籠寺（せきがんじ）」を11月11日に訪れてきました。観光協会に状況を問い合わせると、今年は紅葉が早く、毎年第3日曜日に催されるもみじ祭りでは散っている恐れがあるとのことで、急遽に1週早めでのことでした。

「石籠寺」、大変難しい字で、「籠」とは、仏像などを安置する厨子や壁面の窪みを意味するとのことです。587年聖徳太子による創建と伝えられ、その所縁の毘沙門天の尊像が安置されていた石窟を奥の院として祀っていたことから、石籠寺の名の由来となったようです。

受付の方によると、今年の天候はもみじに厳しく、紅葉は期待しないようにとのこと。朝早かったため、来訪者もほとんどなくゆっくりと…と思ったものの、忠告通り紅葉はさっぱりで、むしろ枯れ葉状態の紅葉の見物と相成りました。

まずは、山門の「金剛力士立像」。「肥後法橋定慶」（じょうけい）による1242年作の国指定の

重要文化財。奥の方で見にくいですが、仁王像としては日本屈指の名作とされます。



山門をくぐった参道は写真のようにもみじの並木となっていますが、紅葉の映える陽射しを待って撮影したものです。写真ではまずまずといったところですが、実は先に言いましたように葉先はちぢれての枯れ葉色で、ちょっとアップには耐えられない状態でした。



続いて、石籠寺撮影定番の白壁の土塀を通過して本堂・毘沙門堂へ。この本堂は「もと奥の院にあったが、宝暦13年（1763年）に焼失し安永7年（1778年）に現在地に再建されたもの」とあります。

少しでも紅葉が映えるよう、谷間の境内に陽射しが入るのを待つため奥の院へ登ってみることにしました。ここから800mの距離ということで

20分位かと思って登りはじめたもののすぐに後悔。結構きつい山道で、運動靴は滑りやすく、受付にあった杖を借りておくべきでした。

ようやくに登り切ったところに鐘楼堂があり、ここから麓の集落、周辺の山々が見渡せられ、ほっと一息のお茶が欲しいところでしたが、これも車の中。見晴らしは鐘楼からの麓の景色。

この鐘は時間が来ると自動的に突かれる装置が付いていました。なんでも東寺の鐘を模したものとありました。



石籠寺の発祥となる奥の院拝殿は、平成6年に開帳記念事業で鐘楼堂、石燈籠18基等とともに復興整備されたものとあります。



この奥の院の先には、「足利將軍屋敷跡」の石碑がありました。

『南北朝時代、足利尊氏が弟の争いで敗れて、播磨に逃れる途中、石籠寺の奥の院に居を構えた。

僧が丹波栗を献上した時にその一つに爪跡をつけ、「都をば出でて落ち栗の芽もあらば世に勝ち栗とならぬものかは」と歌を添え、この栗が芽を出せば都に出て天下をとったものと思ってくれといって植えたといわれている。首尾よくそのとおりとなり、その栗を「爪あと栗」「ててうち栗」として伝えられている。』(境内掲示の石籠寺縁起より要約)

現本堂からしんどい目をして登ってきたこのような山の中に、敗走をしていたとはいえ尊氏が居を構えていたことは驚きでした。

そして下りは下りで滑りに気を付けて本堂へ降りてくると、ようやくの陽射でなんとかそれらしい写真を撮ることができた次第。



花だより 石峯寺の紅葉 (神戸市北区淡河町)

会報第383号(29年9月)のレポートで約束した石峯寺の紅葉を11月19日に鑑賞してきました。1週間前に紅葉の状況を確認したところ「まだ早いようです」とのことだったのが、一気に進んだのでしょうか?前週の石籠寺と替えていた方がよかったかもしれません。ここもかろうじてのショットで、今年の紅葉狩りは裏目シリーズとなりました。



上 石峯寺三重塔、下 石峯寺鐘楼

お知らせ・事務局便り

◎行事案内

1 平成29年度第2回事業推進委員会及び第5回理事会の開催

日時 平成29年12月7日(木)

15時～17時

会場 神戸市教育会館202号室

2 新春会員交流会兼第462回月例会

日時 平成30年1月11日(木)

17時30分～19時30分

会場 神戸三宮東急REIホテル

マリンバ演奏

開宴にあたり新年の祝賀演奏を行います。

奏者 間瀬 尚美氏

越川 雅之氏

ご案内中です。ご参加よろしくお願ひします。

3 平成30年2月(第463回)月例会

日時 平成30年2月15日(木)

12時00分から14時00分

会場 西村屋和味旬彩

テーマ 再生可能エネルギーの現状と課題～あわじ環境未来島構想の現状について～

講師 真継 博氏

NPO法人低炭素未来づくりフォーラム理事兼事務局長

12月下旬頃にご案内します。

4 平成30年3月(第464回)月例会

日時 平成30年3月15日(木)

12時00分から14時00分

会場 神戸三宮東急REIホテル

テーマ 「おもだち」と「かんばせ」

講師 岡田 嘉夫氏

画家

花だより「のじぎく」は30年1月で報告します。



◎ 事務局便り

○ 今年も早くも12月、師走を迎えるところとなりました。年々1年が早まって居るようになって居ますが私だけではないようです。それぞれに背景があるのでしょうか、毎日が充実しているからだと思いたいのですが果たして。

この1年を振り返ると、新年早々の70周年記念式典を経て3月の記念誌発刊まで、息もつかせぬも過言でない状態にありました。最後に一文字とはいえ大きなミスに気付き、貼付け修正をして記念誌の差し替えに回り、なんとか対策しましたが、正に冷や汗ものでした。会員皆さんには自己修正をお願いし失礼しました。

これで70年事業を概ね終え、残る海外研修旅行は石田邦夫記念旅行委員長にお任せとなり、お世話様でした。日程上から業務の都合もあり研修に参加できなかった事務局としては、参加者からその研修報告を頂戴して取り纏め、1月を目途に会報の特別編として発行したいと思ひます。

これで70周年事業も全て完了を予定。さて、打ち上げは如何に。

○ 会報の発行では「欧州のまちづくり」レポート、岡氏の「鉄道秘話」という連載の寄稿を頂戴し、誌面の充実と貴重な情報提供ができましたことを感謝します。また、会長からは「神戸秘話」の連載をいただいています。「建築、土木、文化、スポーツ」と多岐に亘る人物像が紹介されていますが、その人脈、知識に感嘆するところです。

○ 事務局からは、ほぼ毎月の月例会の概要報告。これは結構時間がタイトで、月末はそれこそ充実の極みとなります。そして、神戸港、兵庫県政150年関連や健康管理についてレポートするとともに、「花だよりと小旅行」をシリーズ化してお届けしています。この取材はなかなか時間の制約で難しいところもありますので、是非会員の皆さんからの情報提供をお願いしたいと思ひます。写真だけでも歓迎です。

○ 事務局としては、その他の課題処理を含めあつという間の1年と言える業務をこなしたと自負するところです。その辺は自己採点でもあり、皆様のご意見を謙虚に受け止めたいと思ひますので、何なりとご指摘をお願いします。

大変お世話になりましたことを感謝申し上げます。この間の御礼とさせていただきます。

事務局 : 谷 純夫、石井滝実子
電話 : 078-996-2851
FAX : 078-996-2852
Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

広報コーナー：兵庫県住宅再建共済制度



自然災害から暮らしを守るために



フェニックス
リボーン
ほほびん

小さな負担で
大きな安心！

月換算 **500円** (2年目～417円)の掛金で、
最大 **600万円**の給付

兵庫県が
実施する

フェニックス共済

- 地震、津波、風水害、豪雪、竜巻などあらゆる自然災害が対象です。
- 他の地震保険や共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。
- 住宅の築年数や構造などに関係なく、定額負担で定額給付です。

(兵庫県住宅再建共済制度)

あわせて備えて、もっと安心!

フェニックス共済 + 地震保険や他の共済

例 地震により住宅が全壊！
 火災保険契約額 1,800万円
 再建資金 1,800万円の場合



住宅再建共済制度 年額5,000円で 最大 600万円 給付!	一部損壊特約 年額500円で 相対同等に 25万円 給付!	家財再建共済制度 月給納入 年額1,500円で 出火ときり 止めの場合 年額1,000円で 最大 50万円 給付!
---	--	--

【被害の程度と給付金額】被害認定は、住宅の所在する市町が発行する「災害証明書」によります。

住宅の被害認定(被害率)	建築・購入した場合	給付した場合	建築・購入・賃貸しい場合
全壊 (50%以上)	600万円	200万円	10万円
大規模半壊 (40%以上50%未満)		100万円	
半壊 (20%以上40%未満)		50万円	
特別 一部損壊 (10%以上20%未満)	25万円		10万円

お問い合わせ・お申し込みは、ホームページ または コールセンターまで！

兵庫県
(復興支援課)



公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金
 コールセンター
 ☎ 078-362-9400 (平日9:00～17:00)
 FAX 078-362-4082 [フェニックス共済]